



〈おち ふみお〉(株)あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌なにかができる経済人ネットワーク主宰。

危機管理コンサル越智文雄の時論・持論・自論〈第25回〉

「違和感」は人見逃さずに行やるべきこと

(株)あかりみらい社長

越智 文雄氏

と意識することがすごく大事なことです。越智 なるほど。実に新鮮なお話です。堤 意識をするとアンテナが立つので、情報が入ってくる。大事なことをキャッチできるように、いろいろなことが点と点でつながってくる。そして「おかしい」と感じる人は本能的に本来の場所に帰りたくなる。そこで次にやるべきことが見えてくるんです。だから、違和感をキャッチするのは最初の入口で、そこから意図的に行動することが大切です。越智 人間の本能は変わっていないけど、世の中の方が変質してしまっただけ。それがコロナ禍でくっきり見えてきた。それを堤先生が明確に書いてくださり、「やっぱり、そうだったのか」ですよ。堤 コロナ禍では、政府が言うこと、WHOが言うことがすべてで、それ以外の言論を徹底的に排除しました。それがあからさまで見えやすく、「そんなことまでやるんですか」という事例がいくつもあ

った。昔は、少しは恥ずかしいと思ったり、何となくごまかしたり、わからないようにやったり、ばれた時には慌てたんですけど、今はほとんどの政治家が、開き直り責任を取らなくなっていました。オートメーション化で人が判断しなくなった。越智 政治の世界だけではなく、商いの道徳でも同じことが言えます。私はコロナ禍から次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合代表として活動しています。除菌に最も有効であるはずの次亜塩素酸水を排除しようとするアルコール業界やその利害関係者による陰謀と戦ってきました。SNSでは風評とデマを匿名で書きたい放題。おかしい文化になっちゃいました。正論は自分の名前でも話せと言いたい。恥を知らない人たちが増えてしまった。堤 仰る通り色々な分野で道徳が崩れているのを感じますね。私は以前に『デジタル・ファシズム』という本を書きました。SNSの

特別対談

間が持つ本能動すればが見えてくる

国際ジャーナリスト

堤 未果氏



〈つつみ みか〉国際ジャーナリスト。ニューヨーク州立大学国際関係論学科卒、ニューヨーク市立大学大学院国際関係論学科修士号取得。国連、米国野村證券などを経て現職。政治、経済、医療、教育、農政、食、エネルギーなど、徹底した取材と公文書分析に基づく調査報道を続ける。『ルポ 貧困大国アメリカ』(岩波新書)で日本エッセイスト・クラブ賞、新書大賞受賞。『堤未果のショック・ドクトリン』(幻冬舎新書)など著書多数。

国際ジャーナリスト・堤未果氏の著書『国民の違和感』が9割正しい(PHP新書)が多くの人に読まれている。トーハンの週間ベストセラー(新書部門)では、5月21日調べから7週連続1位を獲得。その堤氏と、本誌で「越智文雄の時論・持論・自論」を連載執筆する危機管理コンサルタント、越智文雄あかりみらい社長が世の中の違和感などについて語り合った。違和感を持った時立ち止まって形にする。越智 堤先生はこれまでも『デジタル・ファシズム』(NHK出版)や『堤未果のショック・ドクトリン』政府のやりたい放題から身を守る方法(幻冬舎)などのベストセラーを出してきました。この『国民の違和感』は9割正しい」ともとても共感できました。堤 もともと違和感を持つことがたくさんあった、という方ほどこの本を読んで「腑に落ちる」「よ

くわかった」「私は間違っていないかったんですね」と肯定してくださいます。越智 著書の(はじめに)では、「違和感とは、私たちが太古から持つ動物的本能、危険を知らせるアラーム」と書かれています。堤 違和感を持った時、言語化しないと違和感は消えてしまいます。ですから、発信する、誰かに話すなどして、立ち止まって形にしておくのはすごく大事。でも、もやもやしていても、「こんなことを言っても…」と言わなかったり、あるいは言えなかったり、スルーしてしまうと自分がわからなくなってしまう。これはこわいこと。違和感を見逃さずに、自分は違和感を感じているんだな、



▲堤未果氏の著書『国民の違和感』は9割正しい

普及で、いつでもスマホで好きなところにアクセスできるようになり、周りが自分をどう見ているか、社会の中で自分が恥じないか、ということよりも自意識がすごく大きくなってしまった。昔の日本には「お天道様が見ているよ」「〚先祖様に申し訳がたたない」という意識がありましたよね。今は、気持ちのよさそうなことだけを選べ、そういうモノや情報だけを受け入れ、気持ちよくなったところでモノを売りつけられる、というようなビジネスモデルの中心になってきています。

越智 まさかこんな有名な大企業がやるわけがない、というようなことが実際に起きている。トヨタグループの在庫の過大計上や認証



不正などはその実例で、豊田章男社長が「やれ」と言ったわけじゃないけど、組織の中でやってしまう、ということがあるのじゃないかね。堤 在庫という点で言えば、出版業界がそうですね。紙の本を読まない人が増えてきて、書店さんはそういう時こそ良い本を広げていきたいと思っているけど、出版社のほうで在庫に過敏になり増刷にも消極的になっていく傾向がありますね。

越智 あらゆることがオートメーション化され、「こうやるようになる」というように、人間が判断しない。考えなくなってしまうているのではないのでしょうか。

堤 そこはすごく大事なポイントですね。人間の人間による人間のための組織・システムが、AI化で大きく変わってしまいました。

越智 ルールに沿って、マニュアル通りにやって、失敗もない、リスクもとらない。楽してできればいい。昔はお役人にそういう傾向が見られましたが、今では民間企業でも増えてきた。

日本の食料基地として 北海道農業を守る

越智 先日、北海道農業協同組合中央会の樽井功会長と懇談しました。肥料や飼料、燃料、資材価格の高騰に加え、就農者の高齢化や後継者・担い手不足などで北海道の農業はかつてないほど厳しい状況にあります。

照明の2027年問題 ま国難が起きよう！

越智 私はいま、「照明の2027年問題」に取り組んでいます。2025年にコンパクト電球が製造禁止、26年にはコンパクト蛍光灯が製造禁止、27年12月には蛍光灯が製造禁止になります。これは世界147カ国の国際条約で定められたことで、このままでは半導体獲得競争やLEDの奪い合いが本格化するでしょう。

2027年までに日本の照明を完全LED化するだけの能力がないことは、大手照明メーカーでつくる業界団体にはわかってはいたはずなのに条約締結をミスリードしたといえます。LED発光ダイオードの原料であるガリウムの93%を独占する中国の国際戦略があつたことは間違いありません。絵に描いたよう



▲堤末果氏は農業や食に関する著書も持つ「ルポ食が壊れる 私たちは何を食べさせられるのか?」(文春新書)、『ヤバい食。潰される農。日本人の心と体を毒す犯人の正体』(ビジネス社)



況にあります。堤先生は農業や食に関しても幅広い見識をお持ちで、著書もあります。

堤 農水省は「足りないものを輸入すればよい」とか「たくさんつくればよい」という経産省的な考え方をずっと持っています。平時はこれでよくても、有事になった時に、牛が食べる飼料がなくなつた、肥料も農薬も手に入らないという事態になり、その時になって「しまった」となる。危機感がないんですね。いまは、日本の大切な食料基地としての北海道農業を絶対に守らなければなりません。そのためには補助が必要です。そこに目を向けなければなりません。

越智 はい。国に求めていくのは



堤先生も著書

に書かれていま

すが、海外の考

え方やシステム

がそのまま日本

に流れてきて、

それまでは日本

のやり方のほう

が良かったのに、

無理やり変えられてしまった、と

いうこともありますね。

堤 はい。たとえば農業では、ア

メリカやオーストラリア、フラン

スといった農業大国で広大な土地

を持つ国のやり方を、四季の特徴

も土壌環境もまったく違う日本に

持ち込んでも合わない。上手くい

くはずがありません。

るときに「いただきます」という言葉が自然に出てくるでしょう？本当に素敵ですね。ところが今ここが崩れかけているから、海外勢がどんどん手をつたんでくる、つけこまれているのです。

越智 そうした伝統的な風習も大きく変わってしまった。言葉の使い方にも「おかしいな」と違和感を持つことはよくあります。

堤 今危ないな、と感じるのは、「多様性」という言葉が巧妙に悪用されていることです。私は以前国連に勤めていましたし、海外に長く住んでいたのも他文化との共生の大切さはよく理解できるのですが、たとえば移民を受け入れることについては今多くの国がかつてないほどの問題に直面しています。文化や宗教、生活習慣の違う人々を受け入れる際、当然起こりうる多くの摩擦をどうするか。ここを丁寧に議論して設計していかないと分断と対立が起きてしまう。でもその現実から目を背け、安い労働力やインバウンド優先でどんどん入れている。「多様性」とい

う言葉を盾に意見を封じてしまう風潮に危機感を感じます。これをやったために、悲惨なことになっている欧州の二の舞になってはいけません。

「三方よし」「お互い様」精神の重要性が高まる

越智 そうですね。SDGsという言葉も便利に使われていますよね。SDGsも脱炭素も完全にビジネスの道具になっています。

堤 SDGsと脱炭素は最初から次の巨大市場としてグローバル企業と金融業界が目をつけていたものでした。問題はメディアもそこに加担していること。色々なものがグローバルビジネス化され、それをメディアはお金で買えるようになった。ある国で商売をするため、その国のメディアに影響を与えて情報を操作して、儲けようとする行為が常態化してきています。科学は一つの説が誕生した時に、本当にそうなのかという人が現れ、そこで証明して、また別なところから「この場合はどうか」という

実験をして、本来、そうやって進化してきたはず。ところがコロナや地球温暖化といった昨今の世界的有事では、白黒のどちらか一つにしか正解がないとして、利権のために科学というものの本質を根本からおかしくしてしまった。情報も言論も異論も許さなくなった時、全体主義が忍び寄ってくる。歴史が証明していますよね。かつて商売というものには、他者や社会の役に立つという良き精神や信頼があったはずなのに。

越智 日本には、この人となら一緒にやっていける、というような信用に基づくビジネス文化があったのですが、だんだん崩れていっているようにも思えます。

堤 ええ。「信用ベースのビジネス文化」は、まさに失ってはならないものの一つですね。リーマンショックがあった時、ニューヨークの学生たちが、やりたい放題していた金融機関のビルに「倫理無くして利益なし」というステッカーを貼って回っていたのを覚えています。米国もいまのような「今

だけカネだけ自分だけ」の拝金主義に走る前には、公益を重んじる大企業がたくさんあったからです。日本に昔からある、売り手、買い手、社会のすべてが満足できる近江商人の「三方よし」や、他者の立場に自分を置いて譲り合う「お互い様」の精神の重要性は、荒んだいまの時代にこそ、かつてないほど高まっています。日本人は今こそこの精神を思い出し、世界に示してゆくチャンスです。

「2027年問題」に取り組まれている越智社長のように、祖国の危機を自分ごととして捉え、本気で動く大人の姿を子どもたちにだけだけ見せられるか。失ったのではなく忘れていただけですから、きつとできると私は信じています。岐路に立つ日本にとって、とても大事なこのタイミングで、こうして北海道でお目にかかれて本当に良かったです。ありがとうございます。

越智 ありがとうございます。これからいろいろなことを教えて下さい。

札幌なにかができる経済人ネットワーク 8月20日例会の講師に樽井功氏農会長

越智文雄あかりみらい社長が主宰する「札幌なにかができる経済人ネットワーク」の186回目となる例会が8月20日、札幌市中央区のカナモトホールで行われる。講師に北海道農業協同組合中央会会長の樽井功氏を招く。

このネットワークは「北海道を愛する熱意ある有志の研究会」として2006年に発足した。以来18年間、数回の欠会はあるながらも、またコロナ禍にあっても月例会を続けている。

講師は各界各層から招き、政界や行政、経済界などのトップリ



▲樽井 功氏

ーダーによる講演もしばしばある。文字通り多彩なネットワークも持っているからこそで、最近では4月22日の例会で国土交通省北海道開発局長の柿崎恒美氏が講演し、北海道開発の推移や人口動態、カーボンニュートラルといった社会的テーマを取り上げるとともに、第9期北海道総合開発計画のポイントを語った。

北海道雪氷桜プロジェクト実行委が 8月25日北海道マラソンで花応援

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会（委員長・越智文雄）は、8月25日に行われる北海道マラソンで昨年に続き、約2万人のアスリートや市民ランナーを花で応援する準備を進めている。

昨年は石狩管内当別町の花井農家からひまわり300本の提供を受け、空知管内沼田町からは春先

今回講師の樽井氏は、北海道農業界のトップリーダーだ。2014年から務めた上川管内の東川町農協組合長時代に、「東川米」のブランド価値を高めたことなどが大きく評価されている。

北海道の農業は、かつてないほど課題が山積している。そうした中で「北海道の農業と日本の食料問題の現実」（仮題）をテーマに話す。オープン例会として一般参加も受け付けるので希望者は事務局の棟あかりみらいへ。0120・760・814

に雪に埋めた蕾の桜をマラソン大会に合わせて開花させ、東京五輪のレガシーコースとなった6ヶ地点の平岸街道で地域の住民らが花を手に応援した。ランナーからは「きれい」「ありがとう」といった声がかけられていた。今年も平岸町内会有志の協力を得る予定だ。北海道雪氷桜プロジェクト実行



▲昨年の大会の雪玉ブース



▲昨年の大会の「花応援」が今年も行われる